

ABSTRAK

“EFEKTIVITAS MODEL PEMBELAJARAN KOOPERATIF TIPE STAD (*STUDENT TEAMS ACHIEVEMENT DIVISION*) DALAM MENINGKATKAN PENGUASAAN HURUF HIRAGANA PADA PEMBELAJAR SMA”

Sri Dwi Handayani
1005704

Dalam bahasa Jepang ada empat jenis huruf yang digunakan, yaitu hiragana, katakana, kanji dan romaji. Huruf pertama yang dipelajari oleh pembelajar bahasa Jepang yaitu hiragana. Bagi pembelajar asing yang terbiasa dengan huruf alfabet tentu akan cukup kesulitan untuk menguasai hiragana, terutama pembelajar pada tingkat menengah atas. Apabila siswa hanya diberikan metode ceramah dalam pembelajaran hiragana, maka siswa akan mudah lupa dengan materi yang diberikan. Untuk itu, pengajar perlu mencari model pembelajaran yang efektif. Beranjak dari hal tersebut, melalui penelitian ini penulis ingin memberikan alternatif model pembelajaran huruf hiragana, yaitu model pembelajaran kooperatif tipe STAD (*Student Teams Achievement Devision*). Model pembelajaran ini merupakan model pembelajaran dengan bentuk kerja kelompok sehingga secara alami akan terjadi tutor sebaya. Penelitian ini bertujuan untuk melihat keefektivan model pembelajaran kooperatif tipe STAD dalam meningkatkan penguasaan huruf hiragana. Metode yang digunakan adalah metode penelitian eksperimen murni. Adapun instrumen yang digunakan, yaitu tes dan angket. Populasi dalam penelitian ini adalah seluruh siswa SMA Negeri 5 Cimahi tahun ajaran 2013/2014, sedangkan sampel yang digunakan yaitu siswa kelas X-7 sebagai kelas eksperimen dan kelas X-9 sebagai kelas kontrol. Setelah melakukan penelitian, hasil yang diperoleh yaitu nilai $t_o = 5,8679$ dan nilai t_{tabel} dengan *degrees of freedom* (df) 72, taraf signifikansi 5%=2,00 dan 1%=2,65. Dengan demikian, nilai t_o lebih besar dari t_{tabel} ($5,8679 > 2,65$), artinya bahwa terdapat perbedaan yang signifikan antara variabel X dan Y sehingga hipotesis kerja (H_k) diterima dan hipotesis nol (H_o) ditolak. Kesimpulan yang dapat diambil dari hal tersebut adalah bahwa model pembelajaran kooperatif tipe STAD dapat membantu meningkatkan penguasaan huruf hiragana pada siswa. Kemudian berdasarkan pengolahan angket, dapat diketahui bahwa lebih dari setengah responden merasa huruf hiragana menjadi lebih mudah dipelajari dengan menggunakan metode STAD. Sebagai kesimpulan, penggunaan model pembelajaran kooperatif tipe STAD dapat meningkatkan penguasaan huruf hiragana. Oleh sebab itu, model ini dapat dijadikan alternatif dalam pembelajaran huruf hiragana.

Kata kunci : Model Pembelajaran Kooperatif tipe STAD, huruf hiragana

ABSTRACT

“THE EFFECTIVENESS OF COOPERATIVE LEARNING STAD (STUDENT TEAMS ACHIEVEMENT DIVISION) TYPE TO IMPROVE HIRAGANA ABILITY FOR HIGH SCHOOL STUDENT”

Sri Dwi Handayani
1005704

Four kinds of letters that used in Japanese are kanji, hiragana, katakana and romaji. When studying Japanese, for the first time the learner have to learn hiragana letters. For the learner who familiar with alphabet, especially for high school student, learning hiragana letters is a difficult thing. If the teacher is not use a special method, student will easily forget. Therefore, the teacher have to use a special method for learning hirgana letters. Based on that reason, researcher want to propose an idea, that is Cooperative Learning STAD Type as a special method for learning hiragana letters. That method is a teamwork method. Then, with a group learning, naturally will happen a peer teaching. The purpose of this research is to find out the effectiveness of cooperative learning STAD type in learning hiragana letters. This research use true experiment design, and to get the data researcher use a pre-test, post-test and questionnaire. The research object is students in High School 5 Cimahi, and the samples are students at X-7 as Experimental Class and students at X-9 as Control Class. From the data analisys, researcher get $t_o = 5,8679$ and t_{table} with *degrees of freedom* (df) 72, significant level 5%=2,00 and 1%=2,65. Based on that result, t_o is higher than t_{table} ($5,8679 > 2,65$) which means H_k is accepted and H_o is refused. That result mean, that Cooperative Learning STAD Type was effective for learning hiragana letters. From the result of questionnaire analisys, the students felt that learning hiragana letters used Cooperative Learning STAD Type was become more easy. In conclusion, Cooperative Learning STAD Type could improve hiragana ability for high school students. And those method can be a hiragana learning method.

Keyword : Cooperative Learning STAD Type, Hiragana

「高校生にひらがなの熟達を向上するための STAD (*Student Teams Achievement Division*) タイプの協同学習の効果」

スリ・ドゥイ・ハンダヤニ
1005704

要約

日本語には四種類の文字を使い、それは漢字、ひらがな、かたかな、ローマ字である。日本語を学習する時に最初に学ぶ文字はひらがなである。アルファベットに慣れる学習者に、特に高校生にとってはひらがなを勉強するのが難しいことである。特別な学習法を使用しなかったら、学生達はひらがなを忘れやすくなる。それで、教師は効果的な学習法をするべきだと思う。それから、本研究で研究者はひらがなを学習法として STAD タイプの協同学習を持ち掛けた。この学習法はグループで勉強する学習法である。それに、グループでは当然学生達が他の学生から勉強するのができる。本研究の目的は、STAD タイプの協同学習でひらがなを学習の効果を分かるためである。本研究の方法は正実験デザイン (*true experiment design*) であり、器械はテストとアンケートである。対象者はチマヒ第 5 高校で、サンプルは 実験クラスで X-7、コントロール クラスで X-9 である。データの分析から、 t 得点=5.8679、それに $df=72$ 、 t 表(5%)=2.00、 t 表(1%)=2.65 ということが分かった。 t 得点は t 表より高いから、作業仮説は受け入れて、ゼロ仮説は拒否された。その結果から、STAD タイプの協同学習でひらがなを学習するのは効果的であることが分かる。またアンケートの結果は対象者が STAD タイプの協同学習でひらがなを学習することが優しくなると言われている。つまり、ひらがなの学習に STAD タイプの協同学習の使用は学生のひらがなの熟達を向上できることである。したがって、この方法はひらがなを学習法になることができる。

キーワード : STAD タイプの協同学習、ひらがな

A.はじめに

言語の学習者として、特に日本語の学習者、熟達しなければならぬ言葉の伝え方が二つあり、それは話し言葉と書き言葉である。話し言葉は口頭で相手に意見やアイデアや情報などを伝えるということである。そして、書き言葉は文字で相手に意見やアイデアや情報などを伝えるということである。

話し言葉の中に大事な能力は話し能力と聞き能力であり、書き言葉には読み能力と書き能力である。だから、日本語の学習者は日本の文字をできなかつたら、自分の言語能力が完璧になることができない、特に書き言葉能力である。

最初に日本語を勉強する時に学ぶ文字はひらがなである。ひらがなが四十六字あり、形も色々あり、書き方の規則もあり、それに似ている字もある。確かに、二十六字のアルファベットを慣れているインドネシア人として、それは難しいことだと思う。さらに、学習法は講義だったら、学習者は忘れやすくなる。それで、学習者の能力を向上するために正確な学習法を使用するのは必要なことになる。

さて、協同学習 (Cooperative Learning) は多くの学習法の中によく使われる学習法である。その一つのタイプのは STAD (*Student Teams Achievement Devision*) である。その学習法は協力方法を使う学習である。普段、STAD タイプは厳正科学の学習を使われる。STAD タイプで難しい公式が分かりやすくなるから、ひらがなの色々な形と書き方の規則を熟達しやすいようにする。

上述の説明によって、研究者は『高校生にひらがなの熟達を向上するための STAD (*Student Teams Achievement Devision*) タイプの協同学習の効果』を研究することにする。

B. 研究の問題

本研究の問題は次のようである。

1. STAD タイプの協同学習の使用する前に対象者のひらがな能力はどうか。
2. STAD タイプの協同学習の使用した後に対象者のひらがな能力はどうか。
3. STAD タイプの協同学習の使用した後に実験クラスとコントロール クラスとの有意差がどうか。
4. STAD タイプの協同学習でひらがなを学習した後に対象者の反応はどうか。

C. 研究の目的

本研究の目的は次のようである。

1. 一年生の高校にひらがな能力を向上するために STAD タイプの協同学習の効果的を知るためである。
2. STAD タイプの協同学習の使用した後に実験クラスとコントロール クラスとの有意差を知るためである。
3. STAD タイプの協同学習でひらがなを学習した後に対象者の反応を知るためである。

D. 研究の理論

ひらがなの文字

言語を伝え方が二つあり、それは話し言葉と書き言葉である。話し言葉は口頭を使い、書き言葉は文字を使う。話し言葉は弱い点がある。それは 短い時間に言葉の形を消える。それで、話し言葉を消えないように文字は要られる。

日本語の文字は漢字、ひらがな、かたかな、またローマ字である。漢字が 5 万ぐらいあり、ひらがなとかたかなはそれぞれ 46 個ある。

ひらがなは十世紀から使われる。ひらがなは次のような使用する：

1. 和語を書くためである。
2. 送り仮名を書くためである。
3. 助詞を書くためである。
4. 漢字で書かない接頭と接尾を書くためである。

STAD タイプの協同学習

STAD タイプは一つタイプの協同学習である。このタイプは 最大限の成績を達するため、授業を熟達に学習者達がお互いに刺激と手伝いを贈って、活躍と対応を強める学習法である。また、クラスは 3, 4 人メンバーでグループを分ける。

授業では、5 つ段階がある。それは次のようである。

1. 授業を発表。
2. グループの活躍。
3. 個人テスト。
4. 個人得点の発展。
5. グループのご褒美を与え。

E. 研究の方法

本研究の方法は正実験デザインで、器械はテストとアンケートである。対象者は 2013/2014 年度チマヒ第 5 高校で、サンプルは 一年生である。それで、研究のサンプルは *purposive sampling* を使用した。そのサンプルは一年生の X-7 が実験クラスで、一年生の X-9 がコントロールクラスで それぞれ 37 名である。データを得るために、テストおよびアンケートを使用される。テストは二回行い、事前テストと事後テストである。事前テストは STAD タイプの協同学習の使用する前に対象者のひらがな能力を知るためであり、事後テストは STAD タイプの協同学習の使用した後に行い、対象者のひらがな能力を知るためである。コントロール クラスには STAD タイプの協同学習を使用しない。また、アンケートは STAD タイプの協同学習でひらがなを学習した後に対象者の反応を知るためである。

F. データの分析

- テストのデータの分析

1. グループデータの計り準備表を作る

Sektor X	f	X	x'	fx'	fx ²
... -...					
... -...					
... -...					
...					
... -...					
Σ					

Sektor Y	f	Y	y'	fy'	fy ²
... -...					
... -...					
... -...					
...					
... -...					
Σ					

2. 平均点を計算公式

$$M_x = M' + i \left(\frac{\sum fx'}{N_1} \right)$$

$$M_y = M' + i \left(\frac{\sum fy'}{N_2} \right)$$

3. 標準偏差を計算公式

$$SD_x = i \sqrt{\frac{\sum fx'^2}{N_1} - \left(\frac{\sum fx'}{N_1} \right)^2}$$

$$SD_y = i \sqrt{\frac{\sum fy'^2}{N_2} - \left(\frac{\sum fy'}{N_2} \right)^2}$$

4. 標準落度を計算公式

$$SE_{M_x} = \frac{SD_x}{\sqrt{N_1 - 1}}$$

$$SE_{M_y} = \frac{SD_y}{\sqrt{N_2 - 1}}$$

5. 平均の違い標準落度を計算公式

$$SE_{M_x - M_y} = \sqrt{SE_{M_x}^2 + SE_{M_y}^2}$$

6. t 得点を計算公式

$$t_o = \frac{M_x - M_y}{SE_{M_x - M_y}}$$

7. 自由度を計算公式

$$df = (N_1 + N_2 - 2)$$

t 得点 > t 表 H_k (作業仮説) は受け入れた

t 得点 < t 表 H_k (作業仮説) は拒否された

- アンケートのデータの分析

$$P = \frac{f}{N} \times 100\%$$

アンケートのデータは次のように分類された。

合間	意味
0%	いない
1% - 5%	ほとんどいない
6% - 25%	一部いる
26% - 49%	半分以下
50%	半分
51% - 75%	半分以上
76% - 95%	かなり多い
96% - 99%	ほとんど全部
100%	全部

G. 結果及び解釈

データの分析によると、t 得点=5,8679、それに df=72、t 表 (5%)=2,00、t 表(1%)=2,65 ということが分かった。t 得点は t 表より高いから、作業仮説は受け入れて、ゼロ仮説は拒否された。つまり、ひらがなの学習で STAD タイプの協同学習の使用は高校生にひらがなの熟達を向上することができる。

またアンケートの結果は対象者が STAD タイプの協同学習でひらがなを学習することが優しくなると言われている。つまり、この方法はひらがなを学習法になることができる。

H. おわりに

結論

1. 本研究の分析によると、実験クラスの平均点事後テストは 83,1、そしてコントロール クラスの平均点事後テストは 48,4 である。t 得点=5,8679、それに $df=72$ 、 t 表(5%)=2,00、 t 表(1%)=2,65 ということが分かった。t 得点は t 表より高いから ($5,8679 > 2,65$)、作業仮説は受け入れて、ゼロ仮説は拒否された。その結果から、STAD タイプの協同学習でひらがなを学習するのは効果的なことが分かる。
2. アンケートの結果によると、対象者が STAD タイプの協同学習でひらがなを学習することが難しくなくなると言われている。

今後の課題

1. STAD タイプの協同学習はひらがなを教える時択一的な学習法になることができる。
2. 他の科目に例え文法、聴解、STAD タイプで研究を行い。
3. 他のタイプの協同学習で 例え *TGT(Teams-Games-Tournaments)*、*GI (Group Investigation)*、*Rotating Trio Exchange*、*Group Resume*、ひらがなや他の科目の研究を行い。

参考文献

Isjoni (2010) *Pembelajaran kooperatif: Meningkatkan kecerdasan komunikasi antar peserta didik*. Yogyakarta: Pustaka Pelajar.

Sudjianto dan Dahidi, A. (2009) *Pengantar linguistik bahasa Jepang*. Jakarta: Kesaint Blanc.

Sudjiono, A. (2011) *Pengantar statistik pendidikan*. Jakarta: Rajawali Pers.

